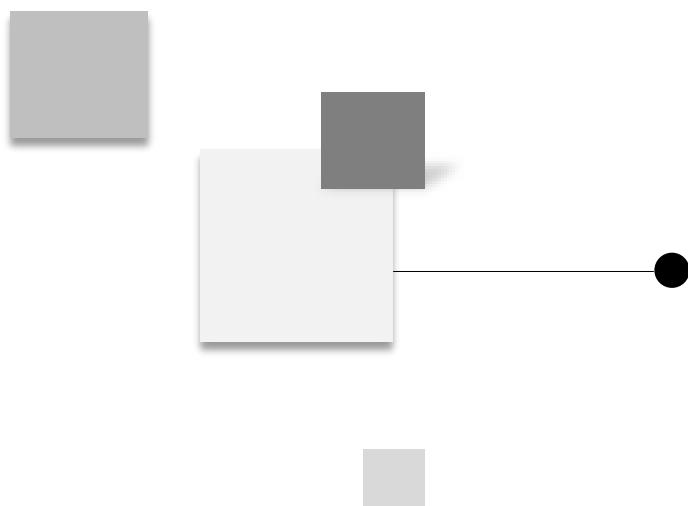


# 授業に役立てるコーパス

コーパスを使って英語授業でどんなことができるか  
----- 英語教員のためのコーパス・ガイド

塚本倫久 著



株式会社ネットアドバンス



# コーパスと英語教育

## 1.1. コーパスとは何か

コーパス (corpus) は

**膨大な量の言語データをコンピュータに蓄積してデジタル化し、検索語や様々な言語統計データを一瞬にしてコンピュータの画面に映し出すことができるようにしたもの**

です。Longman 社や Oxford University Press などから出版されている**学習英英辞典**、日本の**学習英和辞典**のほとんどはコーパスを用いて**編纂**されています。コーパスを利用した言語研究はコーパス言語学と呼ばれていますが、コーパスの発展とともに 1990 年代からこの分野の研究が盛んになり、英語教育の分野では、学習辞書、文法書、テキストの編纂にその成果を見ることができます。また、学習者の作文や会話などのデータを集めて「学習者コーパス」と言われるものを作成し、それを利用した、L2 の学習者がどのレベルでどのような間違いを犯しやすいか、L2 の学習者の英語の使い方の特徴は何かなどについての研究も近年盛んになってきました。現在では研究の用途に合わせて、有料のもの、あるいは無料で使えるさまざまなコーパスを利用できるようになっています。

## 1.2. コーパスの種類

コーパスには一般に

- ◆言語使用の実態をバランスよく知るために構築された「**汎用コーパス**」
- ◆特定の時代の英語を研究したり、学習者の英語の使用を調査するなど、特定の研究のために構築された「**特殊目的コーパス**」

の 2 つがあります。例えば、英語教育で授業のために利用するには汎用コーパスを、学習者の英語の特徴的な間違いを知るためには学習者コーパスと呼ばれる特殊目的コーパスを使うことになります。

よく知られている汎用コーパスには British National Corpus (**BNC**)、The Bank of English (**BoE**)、Corpus of Contemporary American English (**COCA**)などがあります。

**BNC** 1億語のイギリス英語のコーパスで、書き言葉 90%、話し言葉 10%の割合で構成されています。BNC は「**小学館コーパスネットワーク**」(有料)の BNC Online を使用することで、日本語の環境で検索ができます。

**BoE** 6億5千語のイギリス英語 70%とアメリカ英語などで構成されたコーパスです。このうち、一般向けに公開している1億語のコーパス **WordanksOnline** は、「**小学館コーパスネットワーク**」を利用することで日本語環境で検索できます。

**COCA** 2016年8月現在、5億2千万語を有するアメリカ英語のテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などから収集されたコーパスです。COCA は、現時点では、登録することにより無料で利用できます。(「コカ」と呼ばれています)

### 1.3. コーパスはなぜ英語教育に有効か

これまで、英語教師は英語の使い方に疑問が生じたり、生徒から質問を受けてその疑問が解決しないときにはネイティブスピーカーに聞いていました。身近にすぐ疑問が生じたときに答えてくれるネイティブスピーカーがいれば問題ありませんが、なかなかそのような環境にない場合が多いのではないのでしょうか。そのようなときに、大量のデータを集めたコーパスは疑問を解決する手掛かりを与えてくれるものとして有効です。

ネイティブスピーカーに聞く場合でも、あらかじめコーパスで調べてから質問することによって、回答の精度を上げられることが期待できます。

Question 例えば、中学校の授業で play the piano のように楽器の演奏には the をつけると学校では教えることになっています。ところが、英語の文章を読んでいると play piano のような例が出てきます。

実態はどうなっているのか、play the piano と play piano はニュアンスで違いがあるのか、などの疑問が浮かびます。そのようなときには、まさにコーパスの出番です。「小学館コーパスネットワーク」の BNC Online で、play the piano をレーマ検索 (play のすべての変化形を含めて検索) すると 149 例が画面に現れます。今度は play piano を検索すると 11 例が現れました。15 分の 1 程度ですが、確かに play piano が使われていることがわかりました。英米の違いがあるかもしれないので、今度は COCA で調べてみます。すると play the

piano が 788 例、play piano が 358 例で、イギリス英語、アメリカ英語の割合を比較すると、アメリカ英語で play piano が多く使われていることがわかります。『ウィズダム英和辞典』には「the が省略される傾向は((主に米))」という記述がありますが、コーパスを使うことにより、実態をより具体的に把握することができます。さらにどのようなときに the が省略されているのか、用例からニュアンスの違いを分析してみるのも面白いかもしれません。

語(句)検索結果 分布グラフ ☐ ON ☒ OFF ソート・表示変更 クラスター ダウンロード

総件数: 11件 ( 0.10 / 1M語 ) 採用: 11件 基本形 サブコーパス指定: 無

1	We 'd get Rick Wakeman to <b>play piano</b>	on a date and then we 'd add someone just playing bongos .
2	of 101 Interesting Walks , storybook about Bear That Ca n't <b>Play Piano</b>	, contraceptives .
3	some was by musical director Graham ( Mendel ) Whitelaw who <b>played piano</b>	in both Tickly Mince and The Pie of Damocles .
4	&quot; I was <b>playing piano</b>	, for free , at the Premise Club in Greenwich Village .
5	colm Bruce , 22 , whose father Jack was the bass guitarist , <b>plays piano</b>	and keyboards .
6	I <b>played piano</b>	and took lessons for seven years .
7	Born in North Carolina 29 years ago , Tori Amos was <b>playing piano</b>	before she could talk and writing songs before she could wal
8	How convenient that Devlin was <b>playing piano</b>	there although there was no sign of him at the moment .
9	But Mr Essex , who <b>plays piano</b>	and double bass , said : &quot; I never wanted to be a perfo
10	ELSIE CLOUGHTON , 74-year-old musician who <b>plays piano</b>	and piano accordion at events throughout Darlington .
11	But he spent the year studying , <b>playing piano</b>	rehearsals for Scottish Opera 's Salome , and elsewhere .

ーBritish National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

この play (the) piano の例で見られるように、コーパスは実際に使われている英語のデータですから、学校で教えるべき「規範文法」と実際に使われている「記述文法」の違いを検証することができます。

## 1.4. コーパスはどのように英語教育に生かすことができるか

コーパスを授業に生かす場面として、

- ① 教員が教材研究の段階でコーパスを利用する場合
- ② 生徒が授業で実際にコーパスを使って英語の使用を学ぶ場合

の2つが考えられます。

### ①「教員が利用する場合」

- ・ 教室での語彙指導に生かす
- ・ 生徒の英作文を添削する際にコーパスを使う
- ・ 英会話の授業に生かす
- ・ 文法指導にコーパスを役立てる
  - 学習文法と記述文法の観点からコーパスで観察学習をさせる
- ・ 教材研究 ---- どのような用例を提示するかをコーパスで探す

語彙指導を例にとると、頻度情報をもとに、まずどの表現を学習者に最初に教えるべきか、また、同様に頻度情報に基づいて、学習者のレベルに合わせて関連表現をどこまで教えるかといったことを判断することができます。

例えば、have a cup of tea という表現では drink も take も使うことができ、辞書には have[drink, take] a cup of tea が記述されています。BNC Online で頻度を調べてみると have は 155 例、drink は 13 例、take は 3 例であることがわかります。頻度情報から自信をもって have a cup of tea をまず生徒に教えることができます。

### ②の「生徒が授業でコーパスを使う」場合

CALL（コンピュータ支援学習）の一環として英作文の授業で使うことなどが可能です。学習者が実際にコーパスを利用する場合は一定の語学能力を必要とするので、高等学校の上級レベル、あるいは大学での英作文の授業ということになるかもしれません。

以下、教材研究でコーパスをどのように授業に生かすことができるか、実際に教室で英作文にコーパスを利用する場合の具体例を通して見ていくことにします。

# コーパスを語彙指導に生かす

## 2.1. コーパスと語彙指導

コーパスはある語がどのような語と結びついて使われるかを一瞬にして検索することができます。使用頻度の高い表現を示すことができます。検索する前に言語直感を働かせて、どのような語と結びつくか予想しながらコーパスのデータを確認すると、教室でも授業を活性化することができます。

例えば、高校初学年の授業で「買い物に行く」go shopping のような、**go doing** で「…する」のように使う動名詞には他にどのようなものがあるか、語彙を確認する場面を想定してみよう。まず生徒に考えさせ、生徒から回答を引き出した後に、コーパスの共起検索で「go + 一般動詞(-ing)」を検索した結果を示し、どのような動名詞が上位に来るかを確認することができます。

行数:100【基本形】      ソート: 共起頻度																	
Rank	-3 .. -1		-3		-2		-1		0	1		2		3		1..3	
1	going	1204	go	86	going	1168	let	84	go 199175	shop	292	say	217	go	79	shop	298
2	let	193	get	75	let	79	keep	12		miss	120	look	83	leave	48	say	259
3	go	162	say	53	go	69	get	9		look	99	make	76	look	45	look	227
4	get	95	watch	37	wait	59	go	7		swim	88	work	61	say	40	go	148
5	come	83	going	36	come	58	contemplate	6		fish	78	go	58	come	37	miss	123
6	say	75	let	30	try	48	a-borrow	2		hunt	43	talk	58	make	26	make	105
7	wait	64	look	30	think	39	watch	2		fly	31	hide	56	going	21	leave	93
8	keep	59	wonder	27	plan	35	ain'	1		run	31	live	51	play	20	swim	88
9	think	57	keep	26	hope	24	analyze	1		ski	30	leave	42	feel	18	fish	78
10	watch	55	come	25	prepare	23	argue	1		march	28	think	38	get	17	talk	76
11	try	52	tell	23	say	22	arrange	1		dance	27	get	31	take	17	work	70
12	look	41	decide	20	keep	21	avoid	1		rush	27	try	30	try	17	get	59
13	plan	37	know	20	begin	20	bonk	1		ride	24	take	26	tell	15	hide	57
14	hope	36	leave	20	intend	20	broadcast	1		camp	22	play	25	see	13	live	57
15	talk	34	ask	19	talk	19	bury	1		sail	20	see	25	talk	13	hunt	56
16	decide	32	gon	19	refuse	17	canvas	1		walk	20	ask	24	use	13	come	54
17	make	31	think	18	make	16	carry	1		wander	20	pay	23	watch	13	play	50

－British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

この検索結果の表では語尾の-ing は省略されていますが、go doing の型では go shopping が 292 例で圧倒的に頻度が高いことがわかります。教師はこのデータを頻度順に説明したり、生徒の学習レベルに合わせて、わかりやすいものを選択して生徒に示すことができます。

例えば後者の基準で選択すると、go missing, go swimming, go fishing, go hunting, go

skiing, go camping などが候補になるかもしれません。『スーパー・アンカー英和辞典』（第5版）の解説には「doing の内容は気晴らしのために行うことである場合が普通」とありますが、go missing を除いてはそのような内容であることもコーパスから確かめることができます。コーパスを用いたこのような**観察学習**も可能です。

このような語と語の慣習的な結びつきは、**コロケーション (collocation)** と呼ばれています。

## 2.2. コロケーション

コロケーションは一般的に「**語彙コロケーション**」と「**文法的コロケーション**」に分類することができます。have a dream, great influence, absolutely right, openly discuss（率直に議論する）のような「動詞+名詞」「形容詞+名詞」、「副詞+形容詞」、「副詞+動詞」などの語と語の語彙的な関係は語彙コロケーションと呼ばれています。一方、enjoy talking のような enjoy の後に動名詞がくるような結びつき、certain that...、damage to 「…の破損」のように動詞、形容詞、名詞が前置詞、不定詞、動名詞、節など文法構造を従える結びつきを文法的コロケーションと言っています。

例えば「濃いコーヒー」は strong coffee、「夢を見る」は have a dream です。日本語でも、将棋は「将棋を指す」と言い、囲碁は「囲碁を打つ」と言います。このようなコロケーションの例を示すと、学習者にはわかりやすいと思います。

## 2.3. コロケーションはなぜ重要か

- (1) ネイティブ・スピーカーの英語に近い、自然な表現をするのに大変重要です  
「強風」は strong wind ですが、「大雨」は heavy rain となります。また、「高い可能性」は a strong possibility と言い、×a high possibility とは言いません。
- (2) 様々な程度を表す副詞のニュアンスを知るのに大変重要です  
expensive につく程度を表す副詞を見てみると、extremely（すごく）、ridiculously [prohibitively]（法外に）、relatively（比較的）などの様々な語やその例文をチェックすることができます。
- (3) 多義語の場合、コロケーションがその単語の意味の決定に大きくかかわっていることがあります。コロケーションを知れば、どの意味かを決定できます。例えば line には「線」



「列」「電話回線」の意味がありますが、「動詞+line」のコロケーションを見てみると、**draw a line**（線を引く）、**jump a line**（列に割り込む）、**hold the line**（電話を切らないでおく）などを挙げることができます。

## 2.4. 語彙コロケーション

### 2.4.1. 名詞の例

名詞 **mistake** のコロケーションを BNC Online で見てみましょう。

-3		-2		-1		0	1		2		3	
make	328	make	915	make	262	mistake 5005	be	249	make	129	be	129
be	293	be	400	avoid	11		have	71	be	69	make	123
have	280	have	35	be	10		make	28	have	54	have	60
learn	52	repeat	29	correct	8		do	13	think	39	say	30
pay	26	correct	25	prevent	7		occur	7	assume	30	do	20
do	14	realise	24	discover	2		come	6	try	22	think	15
afford	13	avoid	22	find	2		give	5	see	18	get	9
look	8	admit	14	repeat	2		mean	4	do	16	put	9
correct	7	realize	12	accompany	1		relate	4	let	14	try	8
avoid	6	discover	11	admit	1		arise	3	regard	13	know	7
put	6	see	11	cause	1		cost	3	get	12	assume	5
see	6	rectify	8	claim	1		induce	3	put	11	bring	5
spot	6	learn	7	come	1		lie	3	ask	10	go	5
admit	5	say	7	commit	1		appear	2	go	10	occur	5
cover	5	do	5	communicate	1		damage	2	look	10	rectify	5
think	5	explain	4	consider	1		go	2	occur	10	take	5

—British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

まず、動詞との結びつきを見ると、**make a mistake**（間違える）、**repeat the mistake**（間違いを繰り返す）、**correct a mistake**「誤りを直す」、**realize one's mistake**（誤りに気づく）、**avoid the mistake**（誤りを避ける）などが高頻度です。

次に形容詞との結びつきを見ると、どのような誤りか「誤りの重大性」を表す形容詞としばしば連結していることがわかります。

-3		-2		-1		0	1		2		3	
that	44	all	56	big	107	mistake 5005	this	7	that	47	his	21
this	33	his	22	same	94		that	3	his	31	all	12
his	14	her	17	any	65		all	2	this	26	that	12
all	11	any	14	his	54		bad	1	my	23	their	9
other	11	their	14	some	52		easier	1	all	17	this	8
some	11	my	12	my	51		her	1	her	13	other	7
such	10	some	12	great	49		later	1	their	13	my	6
my	8	this	11	terrible	48		many	1	your	10	her	5
easy	6	many	10	their	47		most	1	our	8	new	5
her	6	such	10	bad	45		my	1	any	6	own	5
their	5	your	10	serious	40		right	1	its	6	such	5
any	4	that	9	your	40		similar	1	some	5	young	5
large	4	another	8	her	34		some	1	those	5	your	5
likely	4	its	8	our	33		sufficient	1	both	4	another	4
more	4	our	8	common	32		young	1	many	4	any	4

－British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

「誤りの重大性」を表すのに、a big [great / bad / serious/ terrible] mistake のように多様な形容詞が使われています。この他に、a common mistake（よくある間違い）、the same mistake（同じ過ち）、past mistakes（過去の過ち）などの形容詞と連結する高頻度のコロケーションも覚えておきたい表現です。また、コミュニケーションでは、by mistake（誤って、間違って）や、it is a mistake to do、make a mistake of doing のようなフレーズを知っておくことも重要です。このようにコーパスを用いることにより、高頻度の重要なコロケーションやフレーズを確認して語彙指導に役立てることができます。

## 2.4.2. 副詞の例

副詞はこれまで英語教育の中であまり重視されてきませんでしたが、発信のための英語教育が重視される昨今、微妙なニュアンスを伝える副詞の機能は重要です。例えば、It is very cold today.と言うときに、very の他にどのような副詞が使えるか生徒に聞いてみると、ヴァリエーションが意外と少ないことに気がつきます。BNC Online で検索すると、really [so / too / pretty/ extremely/ quite] cold の他にも bitterly [freezing] cold などのさまざまな副詞とともに使われています。

ここでは rapidly（急速に）と highly（高度に、非常に）がどのような表現で使われているかを見てみましょう。「rapidly +形容詞」を検索してみます。

件数:100件【表記形】    ソート: 共起頻度																	
Rank	-3 .. -1		-3		-2		-1		0	1		2		3		1 .. 3	
1	this	57	this	31	his	17	this	14	rapidly 4480	growing	66	possible	28	its	13	growing	66
2	their	40	his	18	their	13	their	9		increasing	25	his	26	new	11	its	37
3	his	36	their	18	these	12	its	6		deteriorating	13	their	26	his	10	his	36
4	her	24	her	17	this	12	all	4		progressive	13	its	24	some	10	their	34
5	these	24	its	10	new	10	our	3		developing	12	this	20	all	8	increasing	29
6	its	22	new	10	that	7	these	3		advancing	11	her	16	their	8	possible	29
7	new	20	these	9	her	6	able	2		escalating	6	that	12	any	7	this	27
8	that	13	old	7	its	6	few	2		dwindling	5	all	11	late	7	that	22
9	all	10	many	6	large	3	more	2		available	4	recent	10	past	7	all	19
10	such	9	economic	5	other	3	another	1		decreasing	4	any	9	early	6	her	19
11	many	8	my	5	small	3	derelict	1		rising	4	many	9	small	6	new	17
12	old	8	such	5	such	3	deteriorating	1		that	4	those	8	that	6	any	16
13	our	7	that	5	active	2	dry	1		descending	3	your	8	high	5	deteriorating	13
14	few	6	all	4	all	2	essential	1		fatal	3	clear	6	hot	5	developing	13

ーBritish National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

上掲の共起頻度の表から、rapidly は「変化を表す形容詞」とともに用いられていることがわかります。使用頻度の高いのは次のような形容詞です。rapidly growing [increasing / deteriorating / developing / decreasing / progressive etc.] (急速に成長している [増加している、悪化している、発展している、減少している、進歩している])。

また、highly はネイティブ・スピーカーがよく使っている副詞ですが、どのような形容詞とともに用いられるかは、大学生に聞いてもピンとこないようです。BNC を検索した結果は次のとおりです。

件数:100件【表記形】      ソート: 共起頻度																	
Rank	-3 .. -1		-3		-2		-1		0	1		2		3		1 .. 3	
1	<a href="#">this</a>	267	<a href="#">this</a>	118	<a href="#">this</a>	45	<a href="#">this</a>	104	highly 9001	<a href="#">successful</a>	307	<a href="#">political</a>	16	<a href="#">this</a>	37	<a href="#">successful</a>	312
2	<a href="#">these</a>	91	<a href="#">these</a>	46	<a href="#">his</a>	22	<a href="#">some</a>	45		<a href="#">unlikely</a>	174	<a href="#">young</a>	16	<a href="#">his</a>	29	<a href="#">unlikely</a>	175
3	<a href="#">some</a>	66	<a href="#">his</a>	24	<a href="#">these</a>	19	<a href="#">its</a>	31		<a href="#">significant</a>	156	<a href="#">social</a>	12	<a href="#">its</a>	29	<a href="#">significant</a>	157
4	<a href="#">their</a>	54	<a href="#">their</a>	22	<a href="#">such</a>	18	<a href="#">their</a>	27		<a href="#">skilled</a>	135	<a href="#">new</a>	10	<a href="#">their</a>	27	<a href="#">skilled</a>	142
5	<a href="#">its</a>	53	<a href="#">those</a>	19	<a href="#">small</a>	17	<a href="#">these</a>	26		<a href="#">competitive</a>	128	<a href="#">industrial</a>	9	<a href="#">any</a>	18	<a href="#">competitive</a>	131
6	<a href="#">his</a>	51	<a href="#">its</a>	18	<a href="#">all</a>	15	<a href="#">all</a>	22		<a href="#">critical</a>	115	<a href="#">professional</a>	9	<a href="#">that</a>	16	<a href="#">critical</a>	117
7	<a href="#">all</a>	49	<a href="#">some</a>	16	<a href="#">large</a>	14	<a href="#">another</a>	19		<a href="#">effective</a>	109	<a href="#">their</a>	9	<a href="#">all</a>	14	<a href="#">effective</a>	113
8	<a href="#">such</a>	46	<a href="#">that</a>	15	<a href="#">that</a>	11	<a href="#">own</a>	18		<a href="#">complex</a>	107	<a href="#">any</a>	7	<a href="#">many</a>	14	<a href="#">complex</a>	110
9	<a href="#">that</a>	35	<a href="#">our</a>	14	<a href="#">new</a>	9	<a href="#">such</a>	17		<a href="#">desirable</a>	91	<a href="#">financial</a>	6	<a href="#">our</a>	13	<a href="#">desirable</a>	91
10	<a href="#">those</a>	34	<a href="#">likely</a>	13	<a href="#">many</a>	8	<a href="#">many</a>	14		<a href="#">sensitive</a>	80	<a href="#">his</a>	6	<a href="#">some</a>	12	<a href="#">sensitive</a>	89
11	<a href="#">many</a>	31	<a href="#">all</a>	12	<a href="#">important</a>	7	<a href="#">other</a>	13		<a href="#">selective</a>	77	<a href="#">this</a>	6	<a href="#">those</a>	10	<a href="#">selective</a>	78
12	<a href="#">small</a>	29	<a href="#">both</a>	12	<a href="#">skilled</a>	6	<a href="#">our</a>	10		<a href="#">controversial</a>	68	<a href="#">all</a>	5	<a href="#">her</a>	9	<a href="#">controversial</a>	71
13	<a href="#">our</a>	28	<a href="#">small</a>	11	<a href="#">those</a>	6	<a href="#">that</a>	9		<a href="#">sophisticated</a>	66	<a href="#">black</a>	5	<a href="#">sensitive</a>	8	<a href="#">sophisticated</a>	70
14	<a href="#">new</a>	24	<a href="#">such</a>	11	<a href="#">clear</a>	5	<a href="#">those</a>	9		<a href="#">intelligent</a>	65	<a href="#">international</a>	5	<a href="#">these</a>	8	<a href="#">intelligent</a>	68

ーBritish National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

highly successful [unlikely / significant / skilled / competitive / effective / sensitive / sophisticated / intelligent etc.] (大成功の [全くありそうにない、非常に意義深い、高度な技能を持った、すごく競争の激しい、非常に有効な、非常に敏感な、高度に洗練された、

とても聡明な]) のような表現はぜひ使えるようにしておきたい表現です。

**Question** ① completely, widely がどのような形容詞とともに使われているか調べよ。② (形容詞の例として) 「look+形容詞」(例: look happy) で、 どのような形容詞が高頻度か調べよ

## 2.5. 文法的コロケーション

文法的コロケーションについて見ておきましょう。英和辞典ではコーパスが発達するずっと以前から動詞がどのような型を取るか、記述されてきました。これは戦前日本の英語教育に貢献したホーンビー (A. S. Hornby) の影響によるものです。基本動詞の型の知識は作文や会話において極めて重要です。例えば、believe がどのような型を取るかは辞書でも確認できますが、コーパスを検索することで使用頻度も含めて確認することができます。believe の共起頻度を検索すると下記のような画面が現れます。

Rank	-3 .. -1	-3	-2	-1	0	1	2	3	1 .. 3
1	i 7351	i 2244	do 2592	i 4376	believe 32621	that 10063	be 3384	be 3334	that 10690
2	, 5726	, 2119	, 2459	not 4013		it 2731	the 2836	the 1071	be 7067
3	not 4641	be 1238	and 951	to 3323		in 2303	. 1401	have 924	the 5904
4	to 3728	the 881	could 940	be 1966		the 1997	have 1300	, 794	, 3706
5	be 3563	and 595	the 788	he 1715		to 1727	, 1273	&quot; 730	it 3675
6	do 3213	he 579	&quot; 786	we 1546		, 1639	it 730	. 700	in 2907
7	he 2628	&quot; 532	can 752	, 1148		i 1141	a 578	a 650	. 2889
8	we 2167	you 505	i 731	they 958		he 1020	to 512	of 554	to 2661
9	and 2021	of 365	it 599	you 842		. 788	they 481	to 422	have 2307
10	the 1673	but 364	that 511	who 687		they 768	he 468	not 401	i 1720
11	you 1666	that 340	what 496	and 475		you 617	&quot; 423	and 367	he 1692
12	&quot; 1463	she 331	which 430	she 454		this 483	that 373	will 344	a 1472
13	they 1451	do 315	but 428	have 334		she 427	this 328	would 335	they 1403
14	it 1139	we 299	would 428	do 306		there 391	would 324	in 333	&quot; 1259

—British National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

画面からは **believe that...** が圧倒的に高頻度であることがわかります。共起頻度表から believe がとるパターンを予測しながら単語をクリックすると、「**believe in + 名詞**」、**believe to be [to have p.p. / to do]** のように to 不定詞を取る型、believe it, believe you のように物事や人を表す目的語との連結、**believe A to do** (e.g. I believe him to be guilty. 「彼は有罪だと思う」) という型、また、左側に目を向けると **it is believed that [to do]** (e.g. It is widely believed that Mars once had seas. 「火星にはかつて海があったと広く信じられている」) というフレーズが高頻度であることもわかります。

## 2.5.1. 名詞の例

これまで名詞や形容詞の文法的コロケーションはあまり重視されてきませんでした。名詞の文法的コロケーションの例として **idea** を取り上げてみましょう。BNC Online の共起検索で調べると、**the idea of A [-ing], an idea about A, idea that..., idea to do** (e.g. It's a good idea to go to the doctor. 「医者に診てもらうのがいいね」)、**have no idea (that/ how/ what/ why 節)** (e.g. I have no idea what's going on. 「何が起きているのかわからない」) などが高頻度です。また、語彙コロケーションでは、**have no idea, exchange ideas, get an idea, support the idea, develop the idea** などの「動詞+idea」、**a good [excellent/ interesting/ clear]**などの「形容詞+idea」との結びつきを確認することができます。

-3	-2	-1	0	1	2	3
i 840	a 2707	the 8785	idea 21045	of 7124	the 2005	the 724
, 751	the 1432	good 1852		that 2267	a 1291	a 523
to 699	had 1062	no 1717		. 1892	to 649	. 486
's 498	, 637	an 1395		, 1369	what 489	, 476
is 475	have 637	this 610		is 816	&quot; 477	is 429
have 430	to 605	any 448		to 798	that 437	to 388
a 422	with 589	some 422		was 581	it 340	was 373
be 372	of 465	's 383		what 524	&quot; 261	it 263
was 332	and 310	his 199		for 326	how 247	and 225
had 304	've 274	that 181		how 299	i 238	in 207
you 291	on 272	whole 179		and 250	he 221	's 166
not 283	&quot; 268	my 169		in 172	. 218	as 160
he 281	that 264	clear 153		? 154	you 212	&quot; 159
the 267	is 228	new 132		about 145	an 193	that 156
n't 255	like 224	better 123		where 139	, 186	of 149
she 249	you 220	bad 118		which 135	they 171	you 147

— British National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

## 2.6. 類義語とコロケーション ---- relation と relationship

英語は類義語が豊富な言語と言われています。類義語の使い分けには文語と口語、英米の違いなど様々な要因が絡んでいますが、コーパスを利用することによって、コロケーションの違いなどから意味の微妙な違いを検証することが可能になります。**relation** と **relationship** はともに「関係」の意味を表しますが、使い方において違いはあるのでしょうか。まず、コーパスを使って単複を含む共起語を検索してみることにします。両語と共起する高頻度の前置詞は **between, with, to, of** などであることがわかります。**relationship** は **between** との結びつきが極めて高く、**両者の関係をより明示的に述べる**ときに用いられています。**relation** は、**public, industrial, diplomatic, social, foreign, economic** などの**社会的な関係を表す形容詞**と高頻度で連結していることもわかります。

-3		-2		-1		0	1		2		3	
to	760	of	1569	the	4279	relationship 18508	between	4603	the	3019	and	1905
,	755	the	1493	a	828		with	2892	be	519	,	676
of	748	a	1458	their	711		.	1719	a	468	.	624
the	609	and	895	of	521		,	1270	and	261	be	527
a	590	,	679	close	367		be	1076	&quo	193	the	432
be	502	in	675	this	312		to	772	other	193	to	291
and	486	be	329	and	301		of	728	they	189	in	247
in	431	that	322	's	275		and	513	.	183	of	247
have	420	to	312	our	266		in	339	,	172	two	174
that	194	on	265	working	247		which	267	have	167	a	170
nature	135	about	249	personal	230		that	251	not	158	between	136
&quo	130	an	242	special	224		have	211	to	156	have	125
for	129	have	162	his	208		&quo	169	which	137	with	104
on	111	&quo	145	its	200		can	122	in	135	or	78

-3		-2		-1		0	1		2		3	
of	607	of	1517	the	1305	relation 13933	with	1898	the	2084	and	945
to	495	and	1021	public	999		between	1828	be	358	,	534
the	461	the	907	industrial	824		.	1131	.	311	.	440
,	457	in	655	international	600		,	965	,	298	the	409
and	317	,	462	diplomatic	459		of	900	and	249	be	355
in	275	a	317	social	459		to	762	a	231	to	234
be	273	to	290	and	271		be	610	to	202	in	178
science	228	on	208	of	260		and	534	in	166	two	177
a	180	for	190	in	255		in	400	production	156	a	144
have	141	have	154	foreign	252		;	186	&quo	126	of	143
&quo	133	that	153	race	236		&quo	178	other	118	with	95
for	125	be	143	a	198		have	160	which	102	&quo	90
that	119	&quo	140	economic	197		which	127	china	97	have	86
by	88	's	124	its	191		(	118	not	95	:	74

ーBritish National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

次に relationship と relation と名詞のコロケーションを共起検索で調べてみます。relationship は右側の総合ランキングを見ると、people, man, parent, woman, child など人間同士の関係により多く用いられています。一方、relation は China, state, country, Britain など、国家や committee, community などの組織との関係に用いられることがわかります。

-3		-2		-1		0	1		2		3		1 .. 3		
	nature	135	kind	58	working	247	relationship 18508	problem	16	god	72	people	57	people	111
	study	46	sort	43	family	174		goal	15	other	61	child	48	man	99
	change	37	type	31	power	58		difficulty	10	man	56	party	46	parent	89
	issue	36	role	25	business	50		mnemonic	7	people	51	family	44	god	81
	view	36	set	24	employment	50		skill	6	parent	48	man	42	woman	73
	aspect	35	structure	24	parent-child	33		breakdown	3	risk	33	woman	42	other	71
	kind	35	quality	23	marriage	25		change	3	woman	31	parent	41	child	64
	problem	34	network	21	class	22		network	3	government	28	state	41	government	63
	question	33	pattern	20	client	18		pattern	3	language	26	father	38	state	62
	family	29	man	17	kin	17		people	3	price	24	government	35	family	59
	quality	29	problem	17	trading	16		11%	2	britain	22	group	33	party	52
	understanding	29	people	16	blood	13		banking	2	education	21	customer	31	mother	49
	pattern	28	web	15	professional/client	13		building	2	individual	21	mother	29	group	48
	analysis	27	form	14	staff	12		development	2	school	21	rate	29	father	47
	structure	27	life	14	counselling	11		item.found.in	2	state	21	structure	27	customer	46

-3		-2		-1		0	1	2	3	1..3			
science	228	friend	68	race	236	relation 13933	act	92	production	156	country	64	production
employee	63	management	63	labour	143		exercise	47	china	85	united	51	act
development	46	normalization	30	community	129		officer	46	man	45	state	47	china
pattern	39	improvement	25	class	73		committee	45	south	36	usa	40	state
government	36	senate	23	power	72		system	38	britain	35	union	30	usa
improvement	36	workplace	16	gender	67		department	33	trade	33	government	27	country
nature	36	deterioration	15	customer	51		manager	30	usa	33	study	23	man
study	36	property	14	market	48		consultant	24	state	31	people	22	united
institute	34	set	13	public	47		policy	24	russia	30	level	21	officer
state	33	force	12	employee	39		executive	20	parliament	28	ussr	21	people
problem	32	type	11	medium	34		problem	17	japan	27	korea	20	system
system	31	kind	10	trade	33		unit	17	iran	26	west	20	committee
union	31	country	8	property	29		council	16	israel	26	enterprise	19	policy
question	30	israel	8	family	21		company	15	france	25	policy	19	exercise

ーBritish National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

## Question

次の類義語をコーパスで調べよ： country, nation と state, choose と select, refuse, reject と decline, criticize, blame と accuse

## コーパスを英作文指導に生かす

### 3.1. コーパスと英作文指導

コーパスを英作文の指導でどのように活用できるかについては、いくつかの方法があります。

- 1 | BNC のように様々なテキストからバランスよくデータを集めた汎用コーパスを用いる場合、例えば生徒の書いた英文が不自然と思われるときに、コーパスで確認して自然な正しい英語に添削することができます。。
- 2 | 英米のデータが集められている **WordbanksOnline** では、英米の用法の違いを確認し生徒に示すことができます。
- 3 | 大学の授業では、卒論やレポート指導の際に、アカデミックライティングで用いられる表現をコーパスで調べ、英文作成に応用することも可能です。

日本人英語学習者の初期の段階では、「夢を見る」を英訳する際に、母語の干渉を受けて **have a dream** を **see a dream** と書いてしまう誤りがよく見られます。そのような日本人の生徒が間違いやすい表現を調べて、英作文の指導に生かすには **JEFLC Corpus** のような **learner's corpus** を利用することが可能です。

例えば、前置詞の使い方は日本人学者が間違いやすい文法事項の 1 つです。生徒が×**This is my schedule of the next three months.** という英文を書いたとします。生徒に「…のスケジュール」という場合に **schedule** の後にどのような前置詞が来るかを説明する際に、コーパスのコンコーダンスラインを示して、**schedule for the next three days [months/ years]** のように **for** が使われることを、納得のいくように用例を示して説明することができます。



I have a busy	schedule for the next few days	, so I may not be in touch .
et Penny Seu Chen so_that they can sort out Maria 's	schedule for the next few days	, as I doubt if Maria has had time to familiarise he
This committed him to a punishing	schedule for the next eight months	, from the time the play went into rehearsal until
one of the highlights of BBC1 's £80 million	schedule for the winter months	.
a diary full of opera engagements , and my recording	schedule for the next couple of years	is particularly exciting : Così with Mehta &l
The proposed	schedule for the next two years	in_relation_to promotion of materials through the Ch

－British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

アカデミックライティングでよく使われる語彙から **conclusion** を取り上げてみます。まず **conclusion** がどのような動詞と共に用いられるかを BNC Online の共起検索で検索すると、下記のような表が現れます。

-3	-2	-1	0	1	2	3
come 412	reach 209	draw 39	conclusion 7314	be 594	be 83	be 279
be 141	draw 145	reach 26		have 60	reach 47	draw 136
reach 133	be 109	be 11		draw 49	have 43	have 93
draw 115	support 44	base 5		reach 39	draw 42	reach 51
lead 96	jump 43	allow 3		base 17	base 33	do 30
have 69	avoid 34	enable 3		do 16	emerge 14	make 15
jump 32	accept 16	produce 2		seem 13	come 13	come 13
arrive 28	escape 16	await 1		appear 10	support 13	say 11
bring 26	resist 16	criticize 1		follow 9	follow 9	support 8
agree 17	follow 13	develop 1		emerge 7	suggest 9	follow 7
say 14	say 12	expand 1		come 6	see 8	take 7
suggest 13	come 11	frame 1		derive 6	seem 7	base 6
make 10	confirm 11	give 1		need 6	do 6	find 6
form 9	reinforce 11	make 1		make 5	make 6	seem 6
give 9	make 10	provide 1		apply 4	apply 5	accept 5

－British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

動詞との連結では **reach** [draw / support / lead to / avoid /accept] a conclusion（結論に達する [引き出す・支持する・導く・避ける・受け入れる]）、**jump to conclusions**（結論を急ぐ）のようなコロケーションが高頻度で用いられること、コンコーダスラインを調べることにより、しばしば **reach**[draw / avoid] the conclusion that...のように、**that** 節を伴って「…の結論に達する [結論を引き出す / 結論を避ける]」のように用いられること、**avoid** では **It is difficult[hard] to avoid the conclusion that...**（…と結論せざるを得ない）のように用いられていることがわかります。

1	very precise differences between patients ,	it is difficult to avoid the conclusion	that there is one part of the brain that ha
2	sure of religious service for many people ,	it is difficult to avoid the conclusion	that this is because such people have been
3	But	it is difficult to avoid the conclusion	that satyāgraha does involve some coe
4	, Valentin 's marriage did not survive and	it is difficult to avoid the conclusion	that its atmosphere must have been far_from
5	he palaces and lodges In which they lived ,	it is difficult to avoid the conclusion	that Nicolae and Elena had stayed in one ov
6	m which has emerged of the market economy ,	it is difficult to avoid the conclusion	that something important has begun to go wr
7	In all the circumstances ,	it is difficult to avoid the conclusion	that in this country , at the level of the
8	Overall ,	it is difficult to avoid the conclusion	that high tax rates do reduce labour partic
9	econstruction of British towns and cities ,	it is difficult to avoid the conclusion	that both may be contemporary .
10		It is difficult to avoid the conclusion	that with_regard_to the explicit curriculum
1	o have their name directly linked to a quote ,	it is hard to avoid the conclusion	that dealers and artists are hedging their bet
2		It is hard to avoid the conclusion	that Thursday 's extraordinary election result
3	Despite such claims ,	it is hard to avoid the conclusion	that in both the USA and the UK , the audio-vi
4	ated by Big Ben and the Houses of Parliament ,	it is hard to avoid the conclusion	that MacGregor has moved a long way up the gre

－British National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

このように、アカデミックライティングで語の使い方をコーパスで確認しながら論文やレポートを作成したり、普段の学習でコーパスを検索しながら役に立つ表現を蓄積しておくことは有益です。また、授業では教師がこのような表現をコーパスを用いながら授業で提示することも可能ですが、学習者が自律的にコーパスを用いて学習できるように導くことも、大学での上級レベルでは可能になります。

## 3.2. 学習者が間違って使いやすいコロケーション

日本人学習者のコロケーションの間違いにはいくつかの要因がありますが、ここではその中から、「母語の干渉」「語順の逆転」「前置詞との連結」を取り上げます。

### 3.2.1. 母語の干渉

「電話に出る」(answer the phone)、「電話が切れた」(the phone went dead)のように「出る」、「切れた」という日本語をそのまま英訳しようとして、自然な英語が出てこないことがあります。このような例は「母語の干渉」と言われています。日本語と英語が一致しないコロケーションは意識的に覚える必要があります。

「ピクニックをする」(have a picnic)、「宿題をする」(do homework)、「庭仕事をする」(do the garden)、「おしゃべりする」(have a chat)、「抗議する」(make a protest)などのように、「～する」にどのような動詞を使うかは、日本人学習者が間違えやすいコロケーションです。do とどのような名詞が連結するか、make とどのような名詞が連結するかを、コーパスで検索して授業に生かすことができます。たとえば、do とともに用いられる名詞にどのようなものがあるかを見てみましょう。

## do のコロケーション [ダウンロード](#)

< 1 / 5 >

行数:100【基本形】      ソート: 共起頻度																	
Rank	-3 .. -1		-3		-2		-1		0	1		2		3		1 .. 3	
1	thing	4255	thing	1362	thing	2293	people	2024	do 535813	thing	1167	job	1500	thing	1668	thing	3966
2	people	3823	time	656	way	1548	man	608		business	395	thing	1131	job	1058	job	2611
3	way	2364	people	649	people	1150	thing	600		people	253	work	935	time	909	work	1500
4	time	2229	way	627	time	1001	work	587		justice	214	lot	644	people	634	people	1255
5	work	1776	work	597	work	592	time	572		research	109	bit	498	way	513	time	1199
6	man	1421	fact	463	man	475	woman	511		mr	98	people	368	work	467	lot	937
7	woman	1029	year	356	job	437	child	437		work	98	year	319	year	394	bit	780
8	job	1005	job	350	mr	320	government	389		good	94	sort	263	day	326	year	736
9	child	921	man	338	woman	316	company	312		battle	88	time	261	fact	298	business	733
10	government	841	question	311	government	297	hell	279		man	64	fact	250	lot	293	way	581
11	fact	827	day	293	year	289	other	253		woman	59	day	231	bit	264	day	565
12	year	793	sort	287	day	280	mother	248		homage	55	business	215	sense	252	fact	549
13	day	727	lot	240	child	268	job	218		god	53	minister	190	man	239	man	477
14	other	628	reason	230	reason	253	earth	209		job	53	harm	179	money	235	justice	404
15	company	615	child	216	lot	247	law	207		mrs	51	homework	175	child	226	child	391

—British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

この共起頻度の画面から、高頻度のコロケーションは、do a job, do business, do work, do research, do homework などであることがわかります。では「make+名詞」はどうでしょうか。

## make のコロケーション [ダウンロード](#)

< 1 / 5 >

行数:100【基本形】      ソート: 共起頻度																
Rank	-3 .. -1		-3		-2		-1		0	1		2		3		
1	decision	1242	attempt	390	way	724	decision	322	make 197885	sense	1620	way	1548	contribution	706	sen
2	attempt	975	decision	369	attempt	569	people	246		use	1137	decision	1250	decision	691	decis
3	way	960	point	352	decision	551	man	162		love	869	difference	1193	mind	618	us
4	people	928	effort	301	time	512	company	128		thing	539	point	927	difference	579	wa
5	time	898	progress	298	people	417	statement	112		money	535	mistake	915	point	415	differ
6	point	772	time	286	effort	323	point	102		decision	463	effort	747	mistake	328	misti
7	effort	652	people	265	point	318	government	100		contact	417	use	726	effort	317	poi
8	man	556	year	244	thing	255	time	100		life	417	statement	708	statement	270	contrib
9	year	542	way	210	government	253	contribution	93		people	405	sense	664	use	258	effc
10	company	528	case	209	company	248	woman	89		way	292	progress	505	time	256	stater
11	government	487	payment	204	year	244	home	83		arrangement	275	profit	493	noise	253	mor
12	progress	461	change	202	power	240	person	83		mistake	262	change	490	choice	248	lov
13	thing	453	arrangement	198	man	238	policy	82		friend	247	contribution	409	debut	248	char
14	payment	450	application	165	opportunity	236	god	79		provision	243	noise	358	start	244	thi

—British National Corpus（「小学館コーパスネットワーク」より）

「make+名詞」では、make sense, make a difference, make no difference, make a decision, make an effort, make a mistake, make a statement, make arrangement などが高頻度で出現します。生徒の理解度に合わせてまとめて提示することにより、語彙学習を効果的に進めることが可能となります。

### 3.2.2. 語順の逆転

英語には A and B のコロケーションがたくさんあり、「原因と結果」(cause and effect)のように語順が固定しているものもあれば、「肉と魚」(meat and fish / fish and meat)のようにどちらの語順も用いられるものもあり、固定度には差があります。コーパスを検索することにより、頻度から固定度を確認することができます。ちなみに、meat and fish と fish and meat を BNC online で検索すると meat and fish (30 例) に対して、fish and meat (8 例) で、どちらの言い方も可能ですが、meat and fish のほうがよく使われていることがわかります。

総件数: 30件 ( 0.27 / 1M語 ) 採用: 30件 表記形 サブコーパス指定: 無		
1	t_of a sample of about 1,500 , said their consumption of <b>meat and fish</b>	was unaffected by health considerations and 60% did not
2	Someone who excludes <b>meat and fish</b>	from their diet
3	crowaves may cause dangerous molecular changes in milk , <b>meat and fish</b>	.
4	cooking fat , oils , margarine , butter , suet , fats in <b>meat and fish</b>	, dairy products , fried foods , pastries and cakes .
5	In their turn the males continued to subsist mostly on <b>meat and fish</b>	from the animals they had caught .
6	You should eat plenty of <b>meat and fish</b>	while on the diet to ensure you get enough protein , and
7	every evening meal is a set four course dinner which is <b>meat and fish</b>	orientated , they should arrange for special means when
8	WINE , whisky , <b>meat and fish</b>	, valued at £250 , were stolen from a bungalow in

総件数: 8件 ( 0.07 / 1M語 ) 採用: 8件 表記形 サブコーパス指定: 無		
1	<b>Fish and meat</b>	pastes .
2	art that has been used for hundreds of years to preserve <b>fish and meat</b>	, preferred to salting because it does not destroy the n
3	nesdays , Fridays and Saturdays , and there 's a covered <b>fish and meat</b>	market on Sheep Street .
4	he fish before the meat course implies that one must eat <b>fish and meat</b>	.
5	wire mesh roof over it lower than in the Cages and some <b>fish and meat</b>	.
6	here she had never been before , and fed her on soup and <b>fish and meat</b>	and cheese , all of a quality and in quantities she had
7	anced diet including fresh vegetables , fruit , grains , <b>fish and meat</b>	. &quot;
8	&quot; Bloody fellow says he ca n't manage <b>fish and meat</b>	at the same meal , &quot; Amiss overheard him saying , a

—British National Corpus (「小学館コーパスネットワーク」より)

「水と油」(oil and water)、「飲食する」(eat and drink)のように日本語と語順が逆の場合には、注意が必要です。advantage and disadvantage (長所と短所)、joy and sorrow (喜びと悲しみ)、profit and loss (損益)、(the) rich and (the) poor (貧富)のように肯定的なものと否定的なものの連結では、英語では肯定的なものが先に来る傾向があることも、コーパスを検索することにより確認することができます。

### 3.2.3. 前置詞との連結

「改善の余地」(room *for* improvement)、「車の損傷」(damage *to* the car)、「アルコールの税金」(the tax *on* alcohol)のように、「…の～」と言いたいとき、日本人学習者は「の」に当たる英語として *of* を思い浮かべがちです。「名詞＋の＋名詞」を英語で表現するとき、前置詞が *of* に対応しない場合は、名詞の後にどのような前置詞を伴うかに注意させることが大切です。

日本人学習者が間違いやすい前置詞の例をまとめておきます。

the key *to* success 「成功の鍵」

a ticket *for* the concert 「コンサートのチケット」

an expert *in* [on] economics 「経済学の専門家」

### Question

- ① 「保険」は「保険に入る」、「保険を掛ける」、「保険がきく [適用される]」、「保険金を請求する」など、しばしばコロケーションとして用いられる。コーパスで insurance を調べ、それぞれの英語のコロケーションを確認するとともに、教室での指導で活用できそうなその他の高頻度のコロケーションを調べよ。
- ② 「It is + 形容詞 + that ...」のフレーズではどのような形容詞が高頻度か調べ、形容詞を意味グループに分類せよ。



## 終わりに

以上、コーパスを英語教育の現場でどのように活用することができるかについて、具体例を挙げながら見てきました。コーパスは、語彙、文法、英作文などの指導において、英語の使用実態の頻度情報などを根拠にしながら、どのような英語表現が自然な使い方なのかを確認することができます。中学、高校での語彙や文法項目をコーパスで調査した結果を授業の資料として準備し、状況に応じて指導や解説に役立てることは、授業を活性化することにもつながります。また、**JEFL Corpus** などの学習者コーパスや、アカデミック・ライティング、科学英語、経済英語を集めたジャンル別のコーパスを利用することで、大学での英文レポート、卒業論文やビジネス英語の指導においても活用することが可能です。コーパスは研究分野のみならず英語教育の現場でも有効に活用できる言語資料です。コーパスをぜひ授業や自己研修でご活用ください。



**授業に役立つコーパス（非売品）**

2017 年 7 月 25 日 第 1 刷発行

2018 年 11 月 11 日 第 2 刷発行

著者 塚本倫久

発行所 株式会社ネットアドバンス

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-30 昭和ビル 3F

TEL : 03-5213-0871（代表）

© NetAdvance Inc